

岡田宮

宝永4年(1707) 貝原益軒書

第69号

令和2年7月吉日
発行 岡田宮社務所

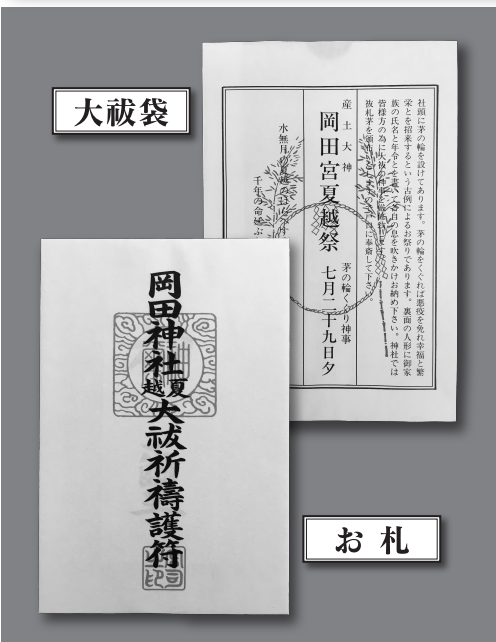
郵便番号 806-0063
北九州市八幡西区岡田町1番1号
電話 (093) 621-1898
FAX (093) 621-5330
ホームページ <http://www.okadagu.jp/>
Eメール okada_guu@yahoo.co.jp



夏越祭

なごしさい

悪病退散 無病息災



岡田宮夏越祭・ウイルス退散祈願のごあんない
令和二年七月二十九日(水)
午前九時〜午後九時(雨天決行)

社頭に設けた茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄を招来するという古式に則った夏越祭を厳修いたします。今年も、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

大祓神事 午後六時より
(今年も、神職と神社総代のみで行います)
当日ご参拝の方に悪病退散・無病息災の「お札」を授与いたします。魔除けとして玄関に奉斎してください。初穂料は大祓袋に住所氏名を書かれてお納めください。郵送対応も行っていきます。

※今年も神事のみ行います。ちびっこ縁日やステージイベントは全て自粛します。

夏越祭ごあんない	1	神社なぜなぜ問答69	3
岡田宮のアマビエ	2	七五三	4
目次	3	巫女奉仕者募集	4

七五三

七五三祭は、子供の成長にともない節目々々に神社にお参りして、いつその息災成長を祈る行事です。
三歳の男子女子の祝いを髪置、五歳の男子の祝いを袴着、七歳の女子の祝いを帯解きなどと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しませんともあれ、七五三は江戸時代から、広く行われた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行われます。
なお、令和二年の七五三の年齢は、左記のとおりですので、ご家族おそろいでお参り下さい。

- 記
- 三歳 平成三十年生(かぞえ齡) 平成二十九年生(満年齢)
 - 五歳 平成二十八年生(かぞえ齡) 平成二十七年生(満年齢)
 - 七歳 平成二十六年生(かぞえ齡) 平成二十五年生(満年齢)
- ※年齢はかぞえ年でも、満年齢でもかまいません。
※毎日午前九時より午後四時半まで受付をしています。



正月巫女奉仕者募集

大神様のお側近くで巫女として仕え、お神札やお守りをお授けする女性奉仕者を募集しています。神様に仕える重要なお務めです。

奉仕資格

- ポジティブな人
- 黒髪のみ
- 返事が02秒でできる人
- 報告・連絡・相談ができる人

※書類審査・面接が有ります。

ご希望の方は神社社務所
電話 (093) 621-1898
までお問い合わせください。



有川写真館
岡田神社 STUDIO

北九州市八幡西区岡田町1-46
TEL 093-621-2080

■営業時間 10:00~17:00
■定休日 水曜日

撮影衣装・着付・ヘアメイク無料
¥19,000~
(四切1枚・台紙付)

七五三お出かけレンタル衣装
¥0~ (お一人様)
新作ブランド衣装など多数取り揃えております

幕末の疫病流行と祈禱

今年には新型コロナウイルスが世界的に感染拡大しているが、江戸時代、この地域にも疫病の流行があった。その一例を紹介したい。

幕末、岡田宮の大宮司波多野直繩（駿河守）の記録（古文書）によると、嘉永三年（一八五〇）五月、熊手村で「疫病」の流行が収まらなかった。そこで、前年同様に疫病退散の祈禱を行うことになった。

五月二十八日から六月一日までの三日間、上上津役村の神職で遠賀郡社家頭取の伊藤紀伊守を招き、二夜三日の病氣退散の祈禱が岡田宮神前で執り行われた。なお、当時の暦で同年五月は小の月であり、二十九日までしかなかった。

祈禱の期間、熊手村の庄屋木村源七

（一八〇一、六一）と組頭の源三・太八郎が岡田宮に出勤した。他に十人頭の又兵衛ら六名が参加した。

祈禱の後、村の産子（氏子）には以下のものが配られた。「行事御札」を家ごとに一枚ずつ、他に桃の枝、シメノコ（わらの飾り）、撒き土・撒き塩といった御饌を分けて、産子（氏子）頭取が社殿前で一人ひとりに配当した。

村の産子に配った御札には、「久那斗神」・「道反大神」をようして家内の「疫疔退治」・「類疔被散」という文言が記されていた。村役人の御札には、疫病・類病に加えて「禍都比神」（禍津日神）・「荒振神」・「泉津鬼醜女」（黄泉醜女）からの厄災を祓うことが記されていた。また、疫病で臥せっている者がいる家の御札には久那斗神・道反大神に加えて「武甕槌命」・「経津主命」の二神が記された。いずれも、『古事

記』・『日本書紀』に記されている神々・鬼女である。

祈禱には多くの費用が掛かったようで、波多野直繩の記録には「安からざる」と二度も記されている。「上官之輩」の伊藤紀伊守らへの謝礼金は一両に及んだ。さらに、祈禱に必要な品々、紙・水引・米・五重の箱・色紙・晒・旬の野菜・葛・掛鯛・菓子・塩などを用意せねばならず、物入りであったようだ。

記録には祈禱の結果、疫病が治まったか否かは記されていない。この年の「疫病」が何だったのかは不明だが、疱瘡（天然痘）・麻疹・赤痢、あるいは風邪であったかもしれない。ちなみに、コレラは文政五年（一八二二）に日本に入ってきていたが、北部九州でも大流行するのは安政五年（一八五八）のことである。

（北九州市立自然史・歴史博物館 学芸員 守友隆）

岡田宮のアマビエ御朱印



写真は神職の手彫りアマビエ御朱印です。本来、御朱印は御朱印帳に納めるものです。しかし、アマビエの予言に基づき「悪疫退散」を願う額に入れて玄関に飾る人が増加しています。

岡田宮のアマビエは、色鮮やかで様々な色展開があり見ているだけで楽しめます。

◆毎日9時から16時半の間に受付です。

※アマビエ

江戸時代後期に製作されたとみられる版仮に、絵と文とが記されている。肥後国（現・熊本県）で夜と海に光るものが出現したため、土地の役人が赴いたところ、アマビエと名乗るものが現れ、役人に対して「当年より6ヶ年の間は、諸国で豊作が続く。しかし疫病が流行したら、私の姿を描き写した絵を人々に見せよ」と予言めいたことを告げ、海の中へと帰って行ったとされる。

神社なげぜ 問答

(その69)

神様の御神徳

うごうご教えんとわい。

書店に行かれてお気づきになるかと思いますが、神道関連の書籍の中でも多く店頭に並んでいるのは、全国各地の神社や神様の御利益（ごりやく）について述べられたものではないでしょうか。

我々日本人は、神々の恩恵を受けることにより、生命を保つための一切のものを戴いているという考えをもち、共同体の守り神として神々を祀り、祈ることが神道の信仰であると考えてきました。

しかし、その一方で、商売繁盛や学業成就、病氣平癒や開運招福などを願う個人的な祈願も、歴史や民俗学から見て、我が国の文化と深い関わりを有していることがわかります。御利益とは日常生活の問題解決に、神々の恵みが人々に与えられることです。もともとは仏教という現世に受ける利益を示す「現世

利益（げんぜりやく）」に由来して用いられたもので、民間信仰として位置付けられています。

具体的には、穀霊神である宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ）稲荷神社の御祭神が、五穀豊穡の神であることから、商売繁盛の御利益に結びついたことや、菅原道真公を祀る天神社や天満宮が、才子として名高い道真公にあやかることから、学業成就の御利益があることなどを見ることができます。このほか、それぞれの由緒や社名、特殊神事に基づいて、特別な御利益があったり、同じ御祭神でも違う御利益があるという事例もあります。

いずれにしても、一般の人々が日々生ずる不安や苦しみから逃れたいと切実に祈る気持ちや、さらなる生活の向上を願う思いが御利益の信仰として表れたものですので、個々の御利益が必ずしも各神社や神様の御神格や御神徳の全てを表したものではありませんが、全国の神社を特徴づけ、その信仰に深みを与えているということが出来ます。